

弘前市立郷土文学館

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 2-1 (追手門広場内)
TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp



郷土文学館
公式 WEB サイト

第50回企画展

『壁の花』直木賞受賞70年

誠実、花咲いては、愛情

令和8年 令和9年
4月1日ー3月21日

【開館時間】午前9時〜午後5時（入館は午後4時30分まで）
【観覧料】一般100円、小・中学生50円
①館内での飲食は、市内の小・中学生、市内の各個人館学生、市内外の障がいのある方
②65歳以上の高齢者は、市内の小・中学生と同様に観覧料が半額となります。

今官一 KON KANICHI

わが友 太宰治 DAZAI OSAMU



撮影 伊馬春部

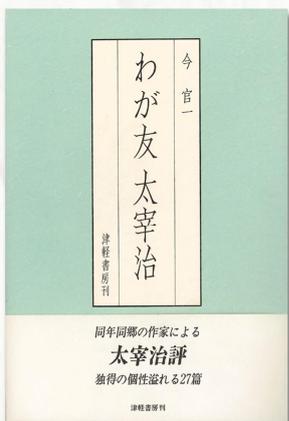
作家・今官一は、太宰治の「桜桃忌」の命名者として知られ、太宰と同じ明治四十二年（一九〇九）、弘前市に生まれました。二人は昭和二年に初めて出会い、同人雑誌『海豹』『青花』などで活動を共にし、『文学の友』『心の友』として、その交流は太宰が他界する昭和二十三年まで続きました。

太宰が第一創作集『晩年』（昭和十一年）を官一に贈る際、「誠実、花咲いては、愛情」ではじまる献辞を認めました。また、空襲が激しい戦争末期、海軍に召集された官一から預かった原稿を、太宰が戦火をくぐり抜け死守したというエピソードも伝えられています。

令和八年（二〇二六）は、今官一が小説集『壁の花』で青森県初の直木賞を受賞してから七十年の節目にあたります。本展は、第一章で、深い絆で結ばれた今官一と太宰治の交流の軌跡をたどり、第二章では、『海鷗の章』『幻花行』『壁の花』など、知的で詩情にあふれ〈はるかなるもの〉へのロマン漂う、今官一の作品の魅力に改めて迫るものです。

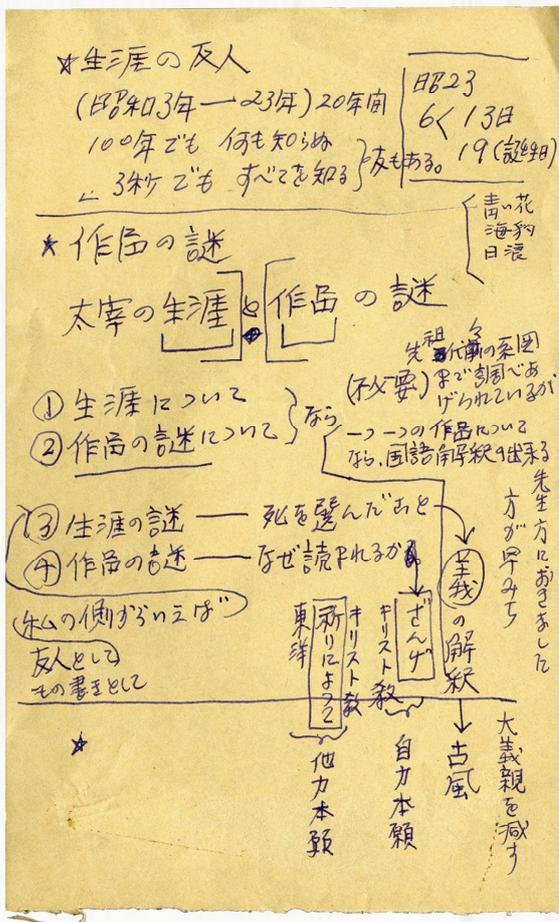


今官一



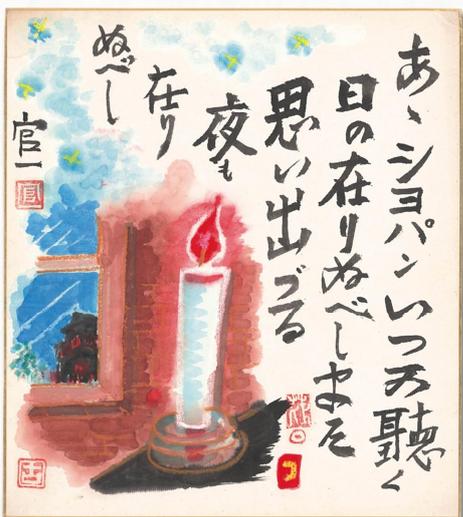
『わが友 太宰治』
津軽書房 平成4年6月1日

太宰治についての構想メモ
今官一は太宰治を「生涯の友人」と記し、そこには「100年でも何も知らぬ／3秒でもすべてを知る 友もある」という印象的なフレーズが書かれている。官一はこのメモで、「謎」をキーワードとして、太宰の生涯と作品を解明しようとしている。



◇第一章 わが友 太宰治

◇第二章 『壁の花』直木賞受賞70年



色紙「あゝシヨパンいつか聴く日の在りぬべし
また思い出づる夜も在りぬべし」
個人蔵



直木賞受賞作品 小説集『壁の花』
藝術社 昭和31年3月30日
装幀 阿部龍応（合成）